

自由人の前に  
自由人の前に  
自由人の前に

# 黒色労働者

## 自由聯合主義の 絶対性に就いて

自由聯合主義は書簡から生れるものでもなければ、學問から得られるものでもない。自由聯合主義は生活してゐる間に、常態としての人々によつて體驗せられ、それに依らねば、人間として到底生活し得られないことを萬人に感ぜしめる生活原理である。

即ち共存共榮の原理で、如何に無學な人でも、凡そ茶碗と箸とを持つことを知つてゐれば、誰か分がるところの原理(原理で六を裁ければ、道理と云つても可い)である。

人間は互に凭ちつ、凭たれつてなければ生きて行かれない。故に凭ちつ、凭たれつけないで、響ひ合つてゐる社會では皆が生活に困るのである。このことは何人でも知つてゐる筈で互に扶け合つたならば、見る見る中に生活が樂になることは、凡ての人が経験してゐるところである。これには理論も要らなず學問も要らない。我が子を可愛がるのに理論も學問も要らないが如くに人間も學問も要らないが如く、西の書物や新聞、ペーパーの文獻も要らなずしなれば、自由聯合主義が分

らないならば、自由聯合主義はインテリゲンチヤの玩弄物に過ぎなくなるであらう。そんな間違つたことが行はれるならば、平等な人間(人間で

地球のこね廻し  
が必要だ



ば生きられない」と云ふ、生活の根本原理なのである。これには何人も異論は無い筈だ。「人間は互に凭ちつ、凭たれつせねば生きられない」と云ふことはブルジョアでも、マルキストでも大抵でも、乞食でも、道楽でも、盗人でも知つてゐる筈だ。否知つてゐるのだ。否、知り過ぎてゐるのだ。故に萬人は自由聯合主義の前に降服してゐるの

の道理をもつてせず、佛に倣つて改造するのだ! 或る特殊の人間が持つち上げた理論で改造するつもりか! 私は斷言する「凡そ理論づけることは、自己の立場の不確定であることを表はすのである」と。  
我が子を可愛がるのに理論は不要であり、子が乳母にすがるとの理論は不要である。期待に倒れてゐる人を助けるのに理論は不要である。人と人とが大事業で協力するのに理論は不要である。  
即ち自由聯合主義は、急務には必ず行はれるところの自然、必然の道理である。これを無視する人は、人間とその社會を滅滅に導く。

自由聯合主義は絶対のもので何人もこれを離れることは出来ない。離れたら自分も社會も滅亡する。萬人の道理なるが故に無理論で、自明である。太陽の明かりのことが自明であると同じである。度んや、妄想であるべき筈がない。

### 三

今、ボルシェヴィキが何をなし、又、教等の数が何十萬人あるらうとも、教等が眞に解放を計畫するならば、それは必ず自由聯合主義によらねばならないのである。自由聯合に反する方式を用ひて解放を叫ぶならば、それは無益の勞をなすに似しい。彼等がマルキストや、レーニズムを唱導してゐる間は、彼等の勞は無駄無益であるの

である。彼等は學問を計畫するのではなくて、實業を計畫するものである。  
人々にして、ボルの勢力の盛んなことを羨むのであるが、若くは若し彼等に勢力ありとせば、それは外交會に勢力がある民政黨に勢力があるのと同一に考へてゐるのであつて、これを羨むことの儀にして、眼味なることを考へるのである。

解放の道は唯一つ。それは自由聯合主義の外にはないのである。若し自由聯合主義を採らぬ人があれば、それは社會進歩を望んで、人類進歩の方式に類く滅亡である。

### 四

それは、誰か平手平手人間がどうして生存し今日に至つたかを、顧みることに出来ない筈である。支配と搾取の闘ひの中に押し込まれ、そこから一歩も外を見ることが出来ず、人類本来の生活を忘れて「ヤレ現實だ、實踐的だ」と騒ぎだてる輩こそ、永遠に解放を知らないものである。

あるが故に人間權があるのだ! の中に學と無學との差別が出来て、その中で學的階級とでも云ふべきものが、自由聯合主義の本山を造るであらう。

重ねて云ふ。自由聯合主義は、諸主義の中の一主義ではなく、諸理論の中の一理論ではなく、人間は互に凭ちつ、凭たれつせね

るが故に人間權があるのだ! の中に學と無學との差別が出来て、その中で學的階級とでも云ふべきものが、自由聯合主義の本山を造るであらう。

要は、只人間が相依り相扶けて、自主自治、共存共榮の社會生活を築かうとする時、何ものがこれを助へつてゐるかをハッキリと見つけることである。まずればそこに必ずや今日の國境つた社會原理と社會制度に對する反抗が生れて来る筈だ。  
二、自由を求めず平等を欲する人類生活の創造がある。自由聯合主義運動の眞意がある。